

作成日：2024 年 9 月 25 日

株式会社足利銀行
グリーン預金 フレームワーク

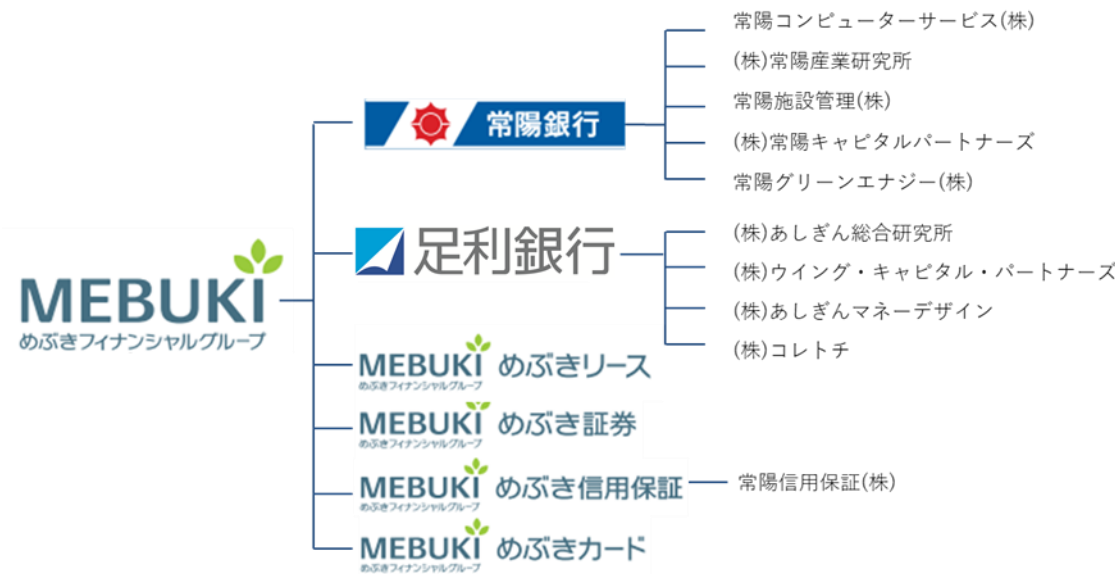
1. 足利銀行のサステナビリティ・ESG に関する方針

(1) 足利銀行の概要

足利銀行は、栃木県を主な営業地盤とする地域金融機関であり、持株会社であるめぶきフィナンシャルグループの子銀行です。

めぶきフィナンシャルグループは、足利銀行と常陽銀行を中心として、その他の関係会社 14 社（2024 年 3 月末現在）から構成され、リース業、証券業をはじめ、シンクタンク機能や投資専門子会社、お客さまの脱炭素化支援や地域商社機能を有する新事業会社などのグループ会社を擁し、ワンストップで多様な金融・非金融サービスを提供しています。

<めぶきフィナンシャルグループ概要（2024 年 3 月 31 日現在）>



<足利銀行の概要（2024 年 3 月 31 日現在）>

商号	株式会社足利銀行
創立	1895 年 10 月 1 日
本店	栃木県宇都宮市桜四丁目 1 番 25 号
資本金	1,350 億円
店舗網	国内:134 店舗(本支店 107 出張所 27)
	海外:2 駐在員事務所(香港、バンコク)
従業員数	2,451 名

<足利銀行の子会社等>

商号	事業内容
株式会社あしぎん総合研究所	調査、コンサルティング業務
株式会社ウイング・キャピタル・パートナーズ	投資業務
株式会社あしぎんマネーデザイン	金融商品仲介業務
株式会社コレトチ	地域商社・電力小売業務

（２）サステナビリティ・ESG に関する方針

めぶきフィナンシャルグループは、サステナビリティをめぐる課題を重要な経営課題として認識し、地域の課題解決と持続的な成長とともに、当社グループの持続的成長と企業価値向上の好循環をはかることを目的として「グループサステナビリティ方針」を制定しています。

また、環境や人権、ダイバーシティに関する取組みを明確化するために、「グループ環境方針」「グループ人権方針」「グループダイバーシティ方針」「環境・社会に配慮した投融資方針」「調達・購買ガイドライン」を制定し、各方針にもとづき、業務運営を行っています。

項目	内容
グループ サステナビリティ方針	株式会社めぶきフィナンシャルグループおよび当社グループ内会社は、グループ経営理念「質の高い総合金融サービスの提供を通じ、地域とともに、ゆたかな未来を創り続けます。」に基づき、地域の課題解決をはかることを通して、持続可能な地域社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。
グループ環境方針	めぶきフィナンシャルグループは、「グループ環境方針」を定め、自らの企業活動において環境負荷の低減に努めるとともに、気候変動をはじめとする環境問題は、重要な課題であると認識し、脱炭素化など、様々な環境保全の取り組みを進めています。
グループ人権方針	めぶきフィナンシャルグループは、あらゆるステークホルダーの基本的人権を尊重することを定めた「グループ人権方針」のもと、融資先や調達・委託先（サプライチェーン）の企業活動が人権に与える負の影響に関心を持ち、人権尊重の取り組みを進めています。
グループ ダイバーシティ方針	めぶきフィナンシャルグループは、多様な能力と個性をもつ役職員が柔軟な発想と行動力を最大限発揮できるよう「グループダイバーシティ方針」を定め、多様性の確保に向けた取り組みを強化、加速させています。
環境・社会に配慮した 投融資方針	めぶきフィナンシャルグループは、環境・社会に負の影響を与える可能性のある特定セクターへの投融資に関しては、「環境・社会に配慮した投融資方針」を定め、環境・社会への影響の低減・回避に努めています。
調達・購買 ガイドライン	めぶきフィナンシャルグループは、持続可能な社会の実現を目指し、事業活動に必要な物品・サービスなどの調達・購買にあたり、グループ共通の「調達・購買ガイドライン」を制定し、環境・社会に配慮した責任ある購買活動に努めてまいります。また本ガイドラインを一般に公開し、サプライヤーと協働した取り組みに努めてまいります。

（３）重要課題（マテリアリティ）

めぶきフィナンシャルグループは、地域金融グループとして持続可能な地域社会の実現に向け最大限貢献するため、特に重点的に取り組むべき5つの重要課題（マテリアリティ）を特定しました。

特定に際しては、環境面・社会面・経済面など外部環境の変化および長期的な将来の見通しについて洞察するなかで、SDGsをはじめ、国際的なフレームワークやガイドライン等を参考にしつつ、「ステークホルダーに対する影響度や期待」と「当社グループが果たすべき役割」の両面から課題を抽出しています。抽出した課題をもとに、サステナビリティ委員会にて、当社グループの経営理念や経営戦略等に照らして、評価および検討を行い、重要課題を特定し、取締役会の承認を経て、最終決定しています。

重要課題（マテリアリティ）	地域とともに解決する課題（例）	インパクト（例）	SDGsのゴール
地域経済・地域社会の活性化	・人口減少、現役世代の減少 ・後継者不足、経営者の高齢化 ・産業構造の変化、基幹産業の維持・育成 ・災害対応 ・農林水産業の振興 ・観光の振興 ・公共インフラの老朽化 ・交通ネットワークの維持 ・SDGs・サステナビリティへの対応 ・地域・企業を牽引する人材の育成	・事業者数の増加、人口流入、雇用創出 ・事業継続、雇用の維持・拡大 ・事業継続・発展、雇用の維持・拡大 ・レジリエンス強化 ・第1次産業の維持 ・域内消費拡大、雇用 ・住みよい街の維持 ・交流人口の拡大、高齢者の移動手段確保 ・サステナビリティへの取り組み推進 ・地域内就労人口確保、高度人材確保	   
気候変動対応・環境保全	・脱炭素 ・激甚化・頻発化する自然災害への対応 ・資源の枯渇・安定供給 ・生態系の変化	・CO₂削減 ・レジリエンス強化 ・廃棄物の削減、資源循環、水資源の保全 ・生物多様性の保護	  
デジタル化の推進	・生産性向上 ・IT人材の不足	・企業の業務変革、競争力向上 ・IT化の促進	  
高齢化への対応	・介護 ・医療提供体制の強化、健康・長寿 ・高齢者の活躍促進	・仕事と介護の両立、バリアフリーな環境 ・地域医療の充実、格差・偏在の是正、医師の確保 ・スキルの伝承	  
ダイバーシティの推進	・子育てと仕事の両立、ジェンダー平等、人権	・多様な人材の活躍、組織・企業の活性化	  

（４）サステナビリティ長期KPI

めぶきフィナンシャルグループは、持続可能な地域社会の実現と企業価値の向上を目指し、サステナビリティに関する基本姿勢や目標を明確化するため、以下の「サステナビリティKPI」を設定しており、足利銀行はグループの中核企業としてKPIの達成に向けた取り組みを進めています。

＜めぶきフィナンシャルグループ 長期KPI＞

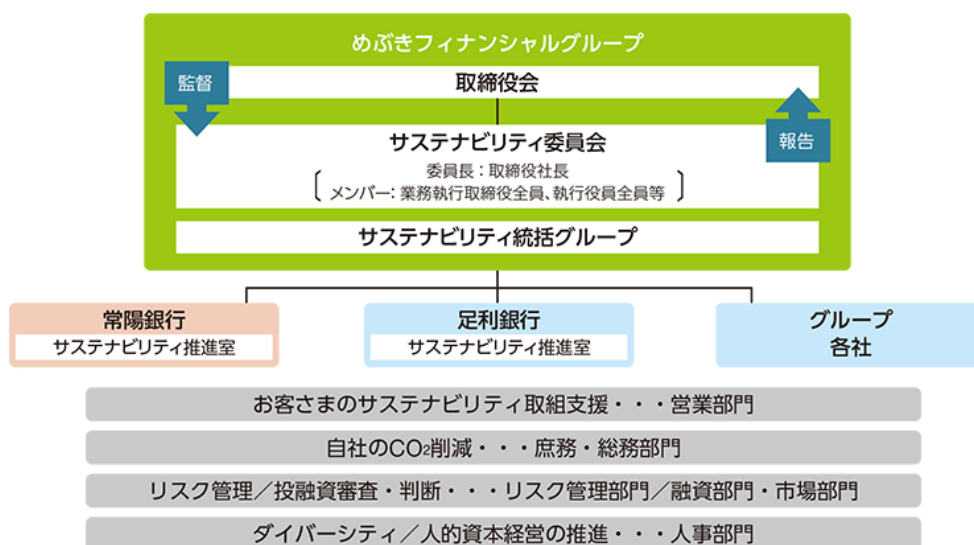
項目	内容
サステナブルファイナンス（2021年度～2030年度累計）	3兆円 （うち環境分野2兆円）
CO2排出量（Scope1&2）削減目標（2030年度）	ネット・ゼロ
係長以上に占める女性比率（2024年度末時点）	35%以上

（５）ガバナンス・サステナビリティ推進体制

めぶきフィナンシャルグループは、取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を設置しています。同委員会は、業務執行取締役全員および執行役員全員ならびに経営企画部統括部長、経営管理部統括部長、地域創成部統括部長で構成され、必要に応じ子会社の社長や子銀行の担当部署の部長等を参集しています。委員会は半年に1回以上開催し、議論については取締役会に報告を行っています。

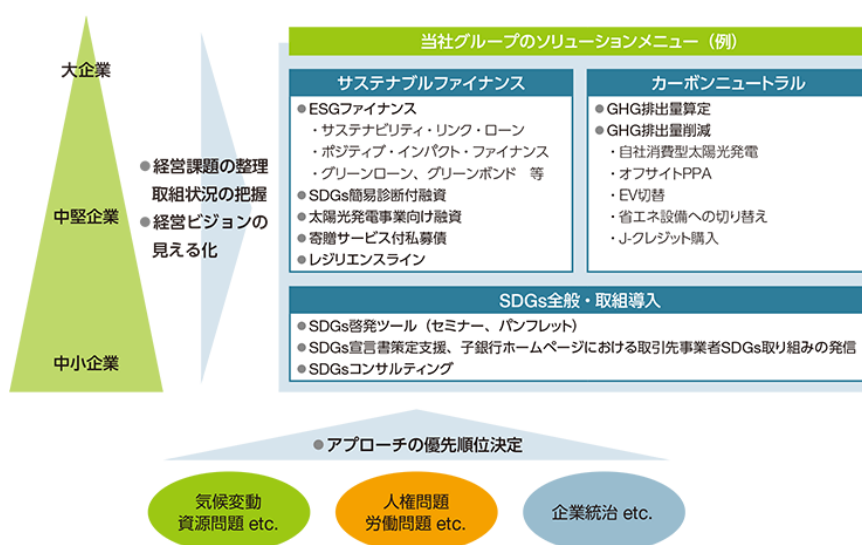
足利銀行においても、サステナビリティ推進室を設置し、サステナビリティにかかる統括・推進を行っています。

＜サステナビリティにかかるガバナンスおよび推進体制＞



（６）サステナビリティ取り組み支援機能

足利銀行は、お客さまのパートナーとして、お客さまのサステナビリティへの取り組みを支援する商品・サービスを拡充するとともに、お客さまに寄り添った伴走支援を展開しています。



3. グリーン預金フレームワーク策定の背景・位置づけ

(1) フレームワーク策定の背景

足利銀行は、サステナブルファイナンスの目標達成に向けた取組みを通じて、持続可能な地域社会の実現を目指しています。本フレームワークにおいては、特に環境分野に着目し、グリーンプロジェクトへの投融資を強化するため、原資となるグリーン預金の枠組みを設定しました。地域の取引先企業に対し ESG への取組み機会を提供し、調達した預金を環境改善事業に還流することで、サステナビリティの実現に向けた取組みが循環する地域社会の実現を目指してまいります。

(2) フレームワークの位置づけ

グリーン預金フレームワークは、グリーンボンド原則を参照し、資金使途・適格プロジェクトの評価と選定プロセス・資金管理・レポーティング等における実施事項を定めることで、透明性を高めることを目的として策定しています。

本フレームワークがグリーンボンド原則の趣旨に準じていることについて、株式会社格付投資情報センターから第三者意見を取得します。

4. 調達資金の使途

グリーン預金による調達相当額は、以下の適格クライテリアを満たす国内外の新規融資、または既存融資に充当します。既存融資に充当する場合、過去3年以内に実行された融資案件を対象とします。

カテゴリ	適格クライテリア
再生可能エネルギー	太陽光発電に関する事業

5. 適格プロジェクトの評価と選定プロセス

(1) プロジェクト選定における適格クライテリアの適用

グリーン預金における環境面での目標は「気候変動の緩和」です。適格クライテリアの設定および適格クライテリアとめぶきフィナンシャルグループのグループ環境方針との整合性については、足利銀行営業戦略部で協議の上確認しました。適格プロジェクト融資については、足利銀行営業戦略部において適格性を確認し選定します。

(2) 社会的（地元問題、環境、法令等）リスク低減のためのプロセス

足利銀行は、めぶきフィナンシャルグループの「環境・社会に配慮した投融資方針」に則り、対象プロジェクトの融資案件ごとに、現地調査や融資審査部での審査過程において、社会的リスクの評価を実施し、融資の可否判断を行います。

6. 調達資金の管理

グリーン預金によって調達した資金の充当状況は、足利銀行営業戦略部によって定期的にモニタリングされ、追跡可能性が担保されます。なお、その頻度は少なくとも1年に1回以上とし、適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当するまでの期間や未充当資金が発生した場合は、未充当資金と同じ額を現金や現金同等物、安全性および流動性の高い有価証券で管理します。未充当資金は早期に適格クライテリアを満たすプロジェクトに充当するよう努めます。

7. レポーティング

(1) レポーティング

グリーン預金の適格プロジェクトへの充当状況については、以下の項目を、グリーン預金の残高が存在する限り、年1回足利銀行のWEBサイトにて開示します。大きな状況変化があった場合には適時開示します。

- ① 充当したプロジェクトの内容
- ② グリーン預金残高
- ③ 投融資残高
- ④ 未充当金額

(2) インパクトレポーティング

グリーン預金の残高が存在する限り、以下の指標につき、少なくとも1年に1回以上、足利銀行のWEB サイトにて開示します。

- ・ CO2 排出削減（見込）量（t-CO2）

以上